

製品名: COL16A1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09171**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	COL16A1
別名	COL16A1; FP1572; Collagen alpha-1(XVI) chain
遺伝子 ID	1307.0
SwissProt ID	Q07092
免疫原	抗血清はヒトコラーゲン XVI α 1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1121-1170

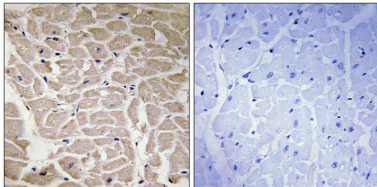
背景

この遺伝子は、FACIT コラーゲンファミリー（断続的ならせん構造を持つ原線維関連コラーゲン）に属する XVI 型コラーゲンの α 鎖

をコードしています。このコラーゲンファミリーのメンバーは、I型やII型などの原線維形成コラーゲンと共存し、細胞外マトリックスの完全性を維持する役割を果たしています。線維芽細胞、ケラチノサイト、平滑筋、羊膜には、XVI型コラーゲンが高濃度で存在することが確認されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、発生段階：妊娠中に一時的に発現が上昇し、妊娠満期に減少します。、ドメイン：この配列は、9つの三重らせんドメイン (COL9~COL1) と10の非三重らせんドメイン (NC10~NC1) の計18の異なるドメインを定義します。三重らせん構造における多数の中断により、この分子は弾性または柔軟性のいずれかに作用すると考えられる。、機能：細胞接着の媒介、および細胞の伸展や細胞形態の変化といったインテグリンを介した細胞反応の誘導に関与する。、PTM：グリコシル化されている。、PTM：トリペプチド繰り返し単位 (G-X-Y) の3番目の位置にあるプロリンは、一部またはすべての鎖で水酸化されている。、類似性：FACIT (fibril-associated collagens with interrupted helices) ファミリーに属する。、類似性：1つのTSP N末端 (TSPN) ドメインを含む。、サブユニット：ホモ三量体。FBN1、フィブロネクチン、およびインテグリン ITGA1/ITGB1 および ITGA2/ITGB1 と相互作用する。インテグリン ITGA1/ITGB1 は、COL16A1のC末端近傍、コラーゲンドメイン COL1-COL3間に位置する特異的な部位に結合する。、組織特異性：乳頭真皮では、特殊なフィブリリン1含有マイクロフィブリルの構成要素である一方、軟骨基質領域では、薄く、弱く縞模様を呈するコラーゲンフィブリルの個別集団に局在し、他のコラーゲン (タンパク質レベル) と共存する。胎盤では、羊膜 (羊膜腔の内層を覆う膜状組織) に認められる。羊膜内では、網状繊維の複雑なネットワークを構成する無細胞性の比較的緻密な層に認められる。また、この緻密層の下の線維芽細胞層にも認められる。組織においては、他の種類のコラーゲンと共存する。、

研究分野

画像データ



コラーゲン XVI α 1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。